紹介文

この季節、灯油タンク一体型の大型ストーブに灯油を入れる際に20リットルの灯油缶（ポリタンク）を持って移動するのは大変なので（特に高齢の親は腰に負担が...）灯油缶を乗せたまま引いて移動できる灯油缶専用カートを作ってみました！

材料

余り木　数本  
余り板　１枚  
ビス　数本  
キャスター（ラバー素材）　４個  
木工ニス　１缶

手順１

材料はすべて余っていたものを使ったので新たな費用はかかっていません。灯油缶を乗せるために必要なサイズの木材をいくつか出してきました。

手順２

板を希望のサイズに切ったら、灯油缶の曲線に合わせるようにジグソーで切り込んでアールをつけていきます。

手順３

灯油缶が滑り落ちないように、端には低い壁をつけていきます。位置がずれないように木工ボンドで接着してからビス留めすることにしました。板のサイズは約24cm×28cmにしました。

手順４

裏側にはラバー付きのキャスターを取り付けました。２個はクルクル回転するタイプで、２個は直線に動くタイプです。

手順５

木工ボンドがだいたい乾いてきたらビス留めします。綺麗にビスを埋め込むには、ドリルで穴を開け・・・

手順６

ビスを入れる前に、プラスのドリルビットを付けたインパクトドライバー（または電動ドリル）で穴を広げるように少し削ります。（ピンボケしました;;）

手順７

そうすると、ビットの頭と同じ角度のテーパー状の穴になるので、ビットを入れた時に木材が割れたりせずにきれいに入ります。

手順８

段差もなくきれいに入りました。この方法が一番カンタンだと思いますが、もっと正確に綺麗に入れたい場合はボアビットで下穴を開けてからビスを入れると良いです。

手順９

曲面をグラインダーや紙ヤスリで整えます

手順１０

接着時に万力で固定する場合は跡がつかないように厚紙など何かを挟んでから使うと良いです。

手順１１  
木工ニスで全体を塗って統一感を出したら乾燥させます。丁度良いサイズの専用カートができました！

手順１２

後輪は真っ直ぐ進むキャスターを付けています。接地面がラバー素材なので音が静かです。

手順１３

前輪は回転するキャスターを付けたので、灯油缶の取っ手を左右に動かすだけで好きな方向に移動できます。

手順１４

後ろ側の壁はほどよくタンクがひっかかる程度にしました。

手順１５

前側はタンクの形状に合わせて削ったので、狭い場所でもひっかからずに動かしやすいです。灯油缶の底の角もナナメになっているので、ナナメに切った木材を使用しました。かなりフィット感があります。

手順１６

灯油缶を乗せたまま楽に移動できる、灯油缶専用カートとなりました！市販でも売ってるかもしれませんが、オリジナルで木製で味のあるカートになりました。

**コツ・ポイント**

18～20㍑の灯油缶は重さが20kgくらいになるので、滑り落ち防止の壁は木工ボンドの接着だけでは取れやすくて頼りないので、裏側からビスでしっかり留めたほうが良いです。キャスターはプラスチックの硬いのだと床にキズが付くやすく音もうるさいので、ラバー付きのキャスターがオススメです。